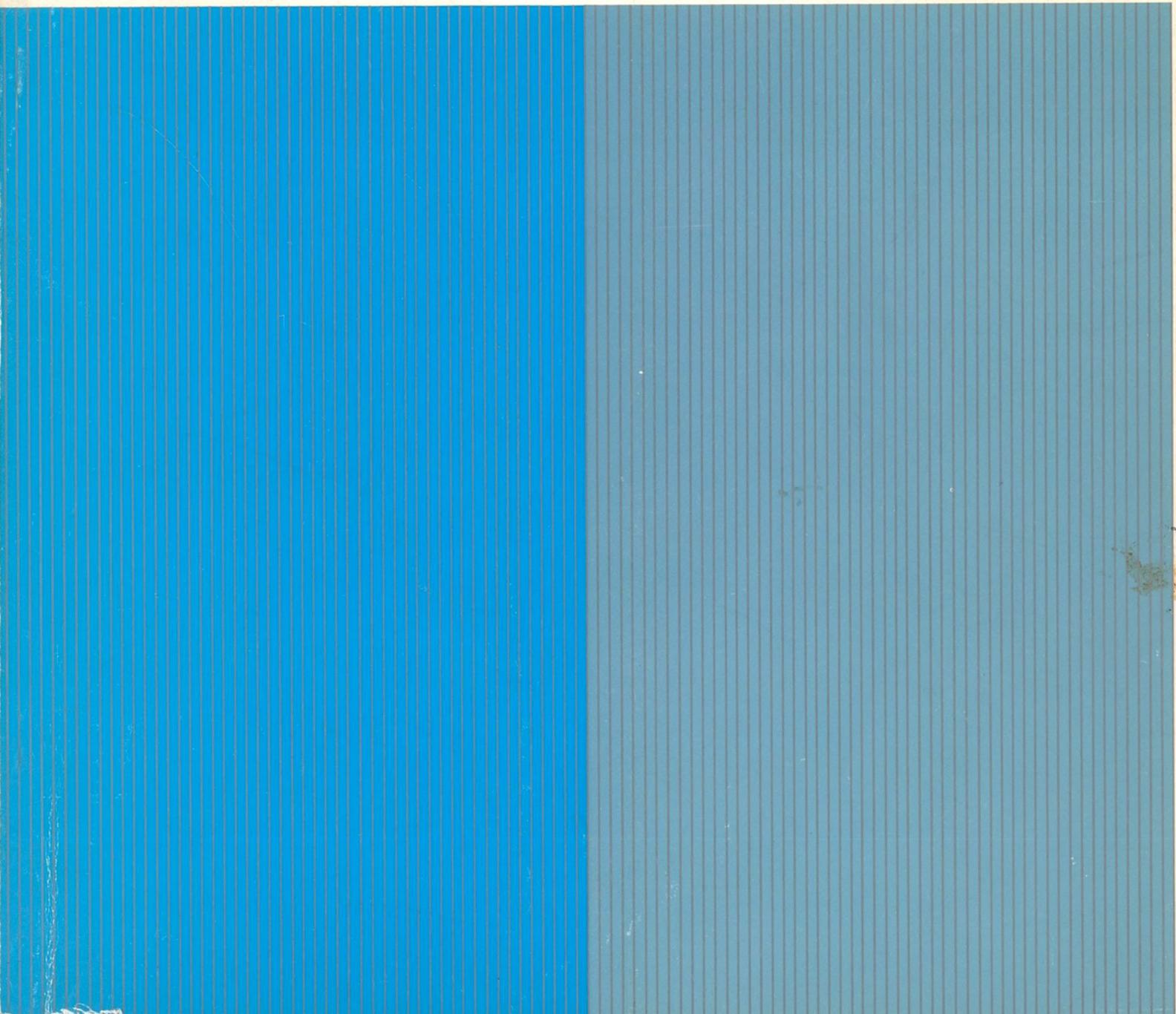


第10回神奈川県美術展



第10回神奈川県美術展

コンクール部門・招待部門〈日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形〉

昭和50年1月17日—2月4日

コンクール部門・招待部門〈工芸・書・写真〉

昭和50年2月8日—2月24日

会場—神奈川県立県民ホール

主催—神奈川県美術展委員会

神奈川県教育委員会

神奈川県

あいさつ

第10回神奈川県美術展の開催にあたって一言ご挨拶申し上げます。

新人作家の育成と県民の文化向上とを目的とした本展覧会は、昭和41年に県内美術関係者の熱意と協力によって誕生したものであります。当初は絵画・彫刻部門の公募と招待展で発足いたしました。その後、工芸・書・写真部門を加えて、県内最大規模の美術展に発展しました。また、質的にも年々開催のたびに充実の度を加えまして、成果をあげて参りましたことは、大方の識者のご承知のところであります。

これはひとえに美術関係者ならびに県民各位のご協力のおかげでありまして、厚くお礼申し上げる次第であります。

「県民ホール」の開設記念行事の一環として開催することになりましたこの第10回展からは、設備の整った当ギャラリーで開催できます。ながい間会場難で分散開催を余儀なくされて参りましたことを顧りみますと、喜びひとしおのものがあります。ここに改めて、多くの障害を克服しつつここまで成就されました関係各位に対し、深い敬意を表します。

県民の文化的創造活動が高まりゆく今日、本展開催の意義はきわめて深いものがあると存じます。本展は、新人作家育成をさらに図るため、この第10回展から海外留学資金を拡充いたしました。私ども関係者は今後も引き続き本展覧会の発展のために努力を重ねる所存でございますので、皆様の一層のご支援、ご鞭撻をお願いしてやみません。

昭和50年1月17日

神奈川県美術展委員会
委員長 高村象平

第10回神奈川県美術展委員会組織

顧問

- ・日本画
 - 小倉遊亀
 - 中島清之
 - 前田青邨
 - 安田靫彦
 - 山本丘人
- ・洋画
 - 有島生馬
(S49.9.15逝去)
 - 小山敬三
 - 斉藤義重
 - 野口弥太郎
- ・版画
 - 棟方志功
 - 彫刻
 - 圓鐔勝三
 - 高田博厚
 - 安田周三郎
- ・工芸
 - 赤地友哉
 - 各務鑛三
- ・書
 - 殿村藍田
 - 比田井南谷
- ・写真
 - 影山光洋
(50音順)

県展委員

- 委員長 象平
高村
- 副委員長 嘉男
菅原
- 井上信道
- 小関利雄
- 奥村泰宏
- 各務鑛三
- 竹田道太郎
- 土屋利保
- 寺田透
- 殿村藍田
- 中村溪男
- 野尻高経
- 土方定一
- 三上次男
- 宮之原武雄
- 山本丘人
- 李家正基

大賞・記念賞選考委員

審査員

各務 鑛 三
 加藤 東 一
 木村 一 生
 斉藤 顕 治
 菅沼 五 郎
 菅原 寿 雄
 田中 雅 夫
 竹田 道太郎
 寺田 透
 殿村 藍 田
 野村 博
 蓮田 脩吾郎
 土方 定 一
 三上 次 男
 宮之原 武 雄
 李家 正 基

・日本画
 大森 運 夫
 加藤 東 一
 ※竹田 道太郎
 月岡 栄 貴
 洋画
 木村 一 生
 寺田 透
 土井 俊 泰
 土方 定 一
 兵藤 和 男
 広瀬 一 二
 松本 久 男
 森 秀 雄
 森 秀 男
 ・版画
 斉藤 清
 島 州 一
 野村 博
 棟方 志 功
 ・彫刻
 伊藤 芳 雄
 ※菅沼 五 郎
 ・立体造形
 ※斉藤 顕 治
 山 井 イク夫

・工芸
 ※赤地 友 哉
 小島 章 光
 佐藤 もとい
 佐野 登志子
 蓮田 脩吾郎
 松井 三 郎
 吉田 丈 夫
 ・書
 大西 芳 流
 川口 芝 香
 佐々木 如 空
 ※殿村 藍 田
 松岡 東 庵
 吉田 蘭 處
 ・写真
 ※奥村 泰 宏
 影山 光 洋
 田中 雅 夫
 常盤 とよ子
 永田 一 脩
 浜口 タカシ

※印は各部門審査委員長

実行委員

・日本画

※大山 鎮

浅見 信夫

・洋画

石井 佐一

江添 栄一郎

金沢 博

※国領 経郎

柴田 善登

田代 利夫

塚谷 博

鶴田 猛

寺井 重三

内藤 雅彦

左川 善弘

前川 佳子

・版画

※馬場 檮男

・彫刻

※坂上 政克

長江 録弥

西谷 富士雄

安田 周三郎

・立体造形

※密波羅 伸三

・工芸

飯野 啓三

江刺 栄一

岡村 康子

小林 貢

永井 鉄太郎

※馬場 松堂

林 良達

平野 トミ子

廣井 樹美

前田 金弥

・書

※青木 香流

大島 崑山

重田 翠村

志賀 正枝

溪口 幽城

荻原 櫛風

・写真

伊藤 藤十郎

大谷 正夫

里見 力磨

塩田 正男

鈴木 健夫

※野沢 喜七

須田 恒弘

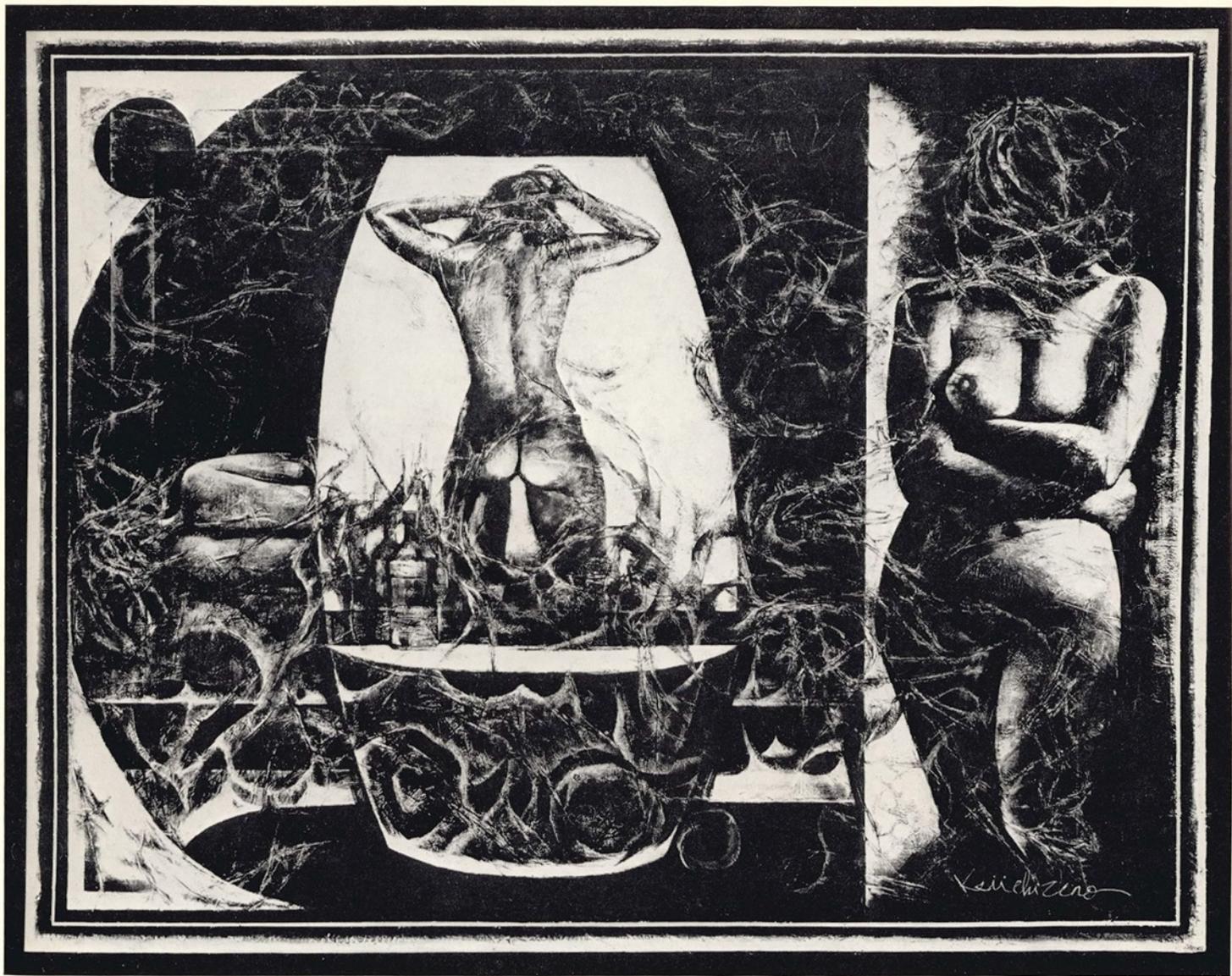
※印は各部門審査委員長



大賞 大山 鎮 語り (日本画)



県民ホール開設記念賞 谷川義美 腐葉土 (洋画)



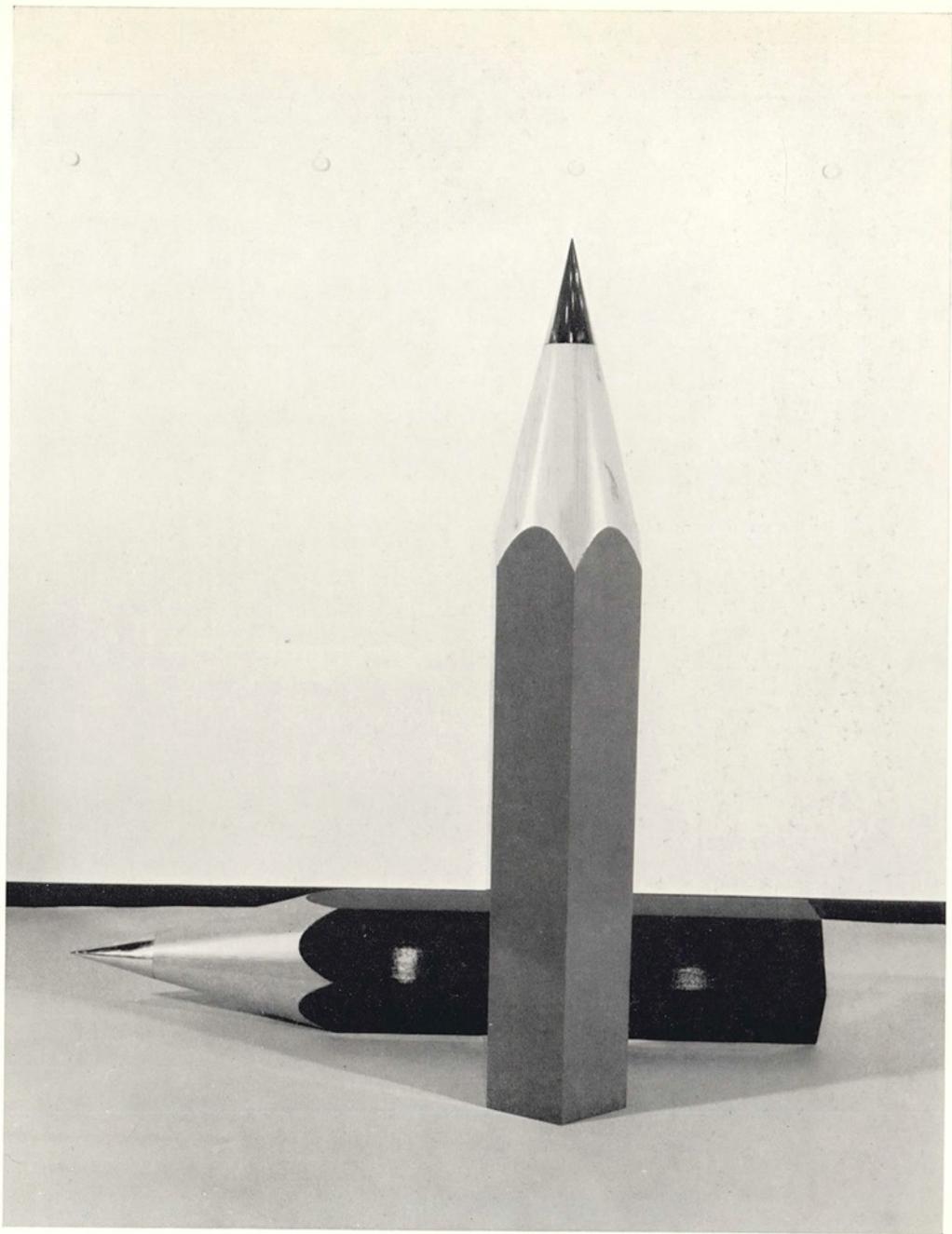
特選 宇野圭一夜 (日本画)



特選 泉谷淑夫 幽愁 (洋画)



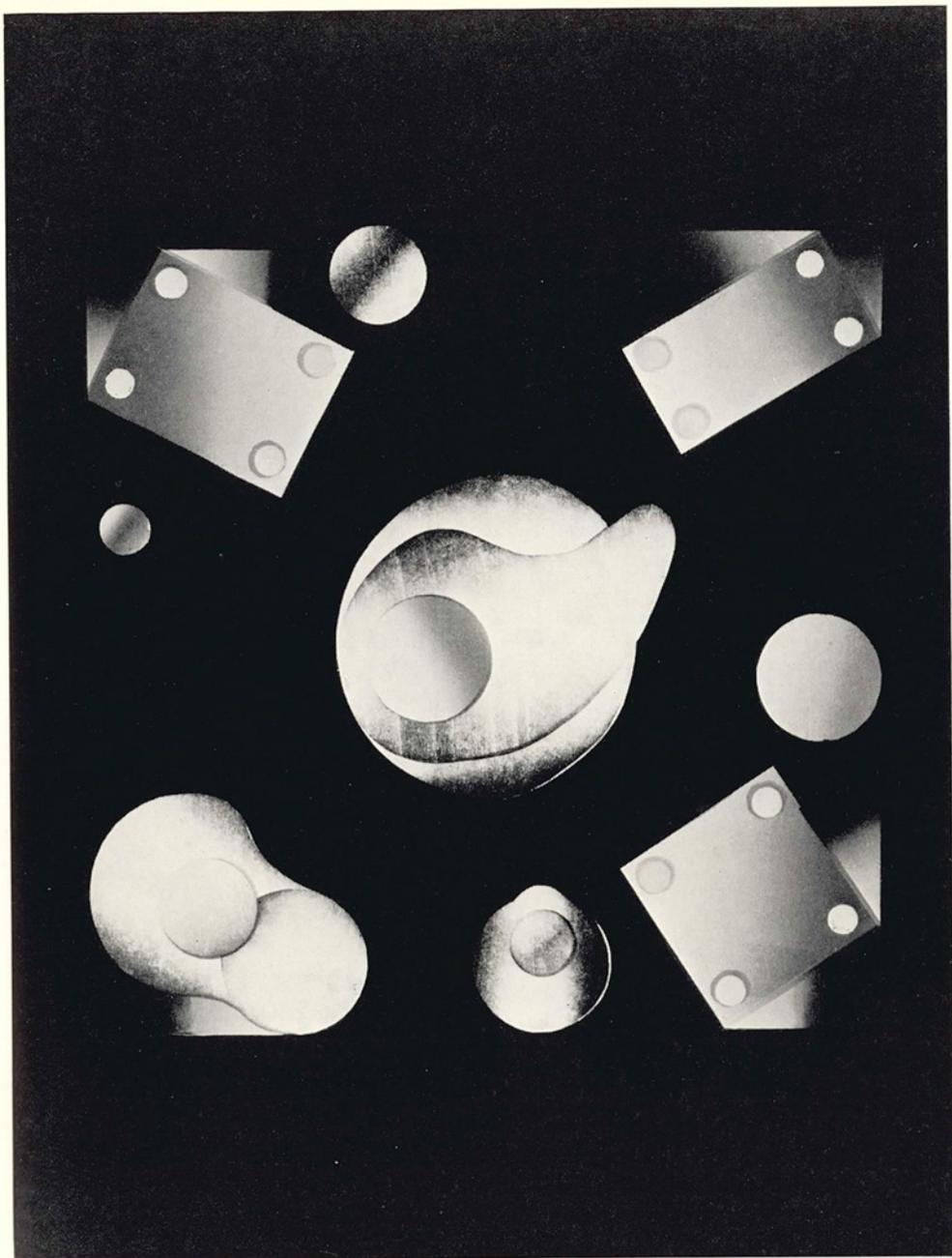
神奈川県立近代美術館賞 山田英男 面II (洋画)



美術奨学会賞 伊藤康彦 赤鉛筆・黒鉛筆 (立体造形)



美術奨学会賞 河原 明 足が棒になった男 (彫刻)



K氏賞 西田知子 創世紀3 (版画)



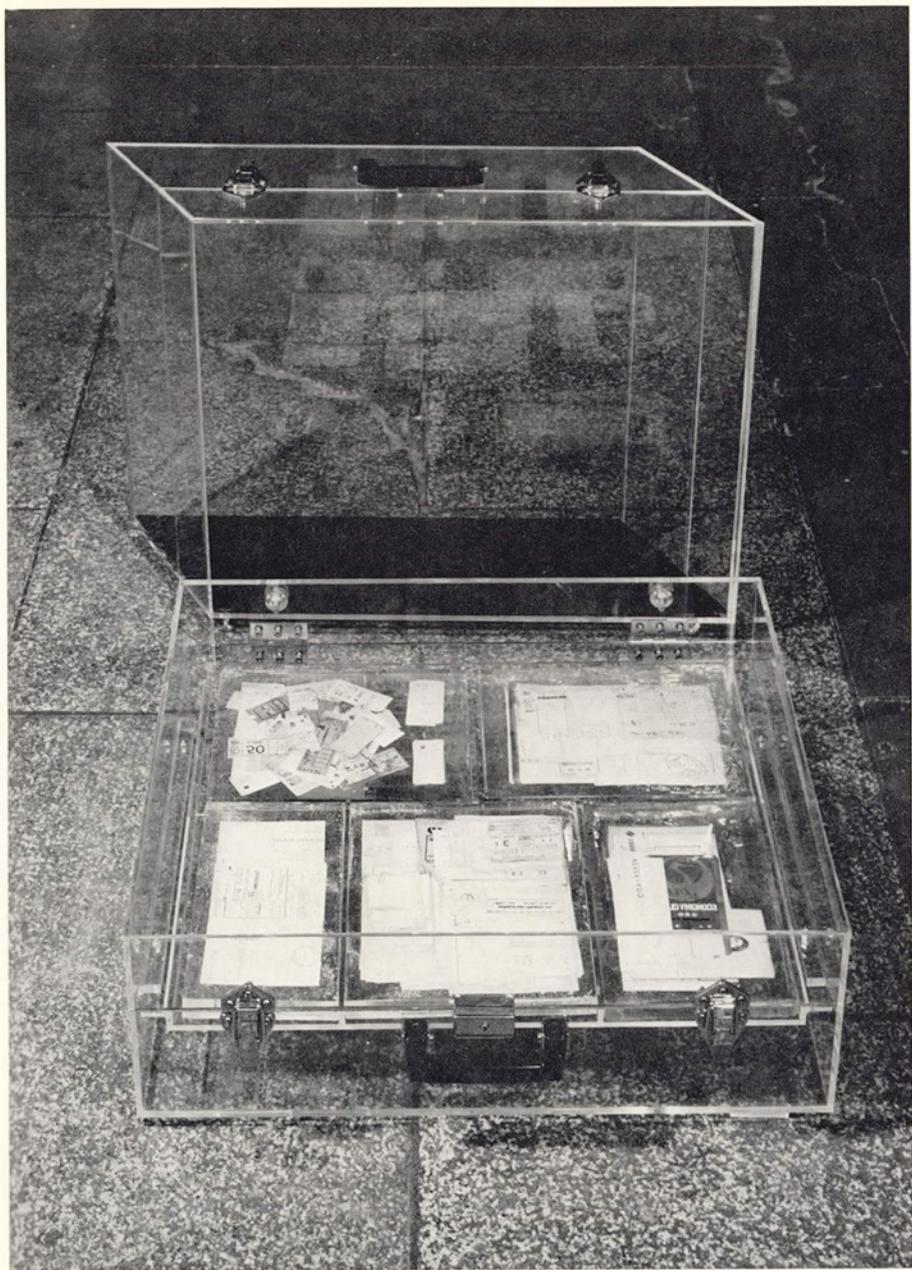
K氏賞 長沢昭朗 痕 (日本画)



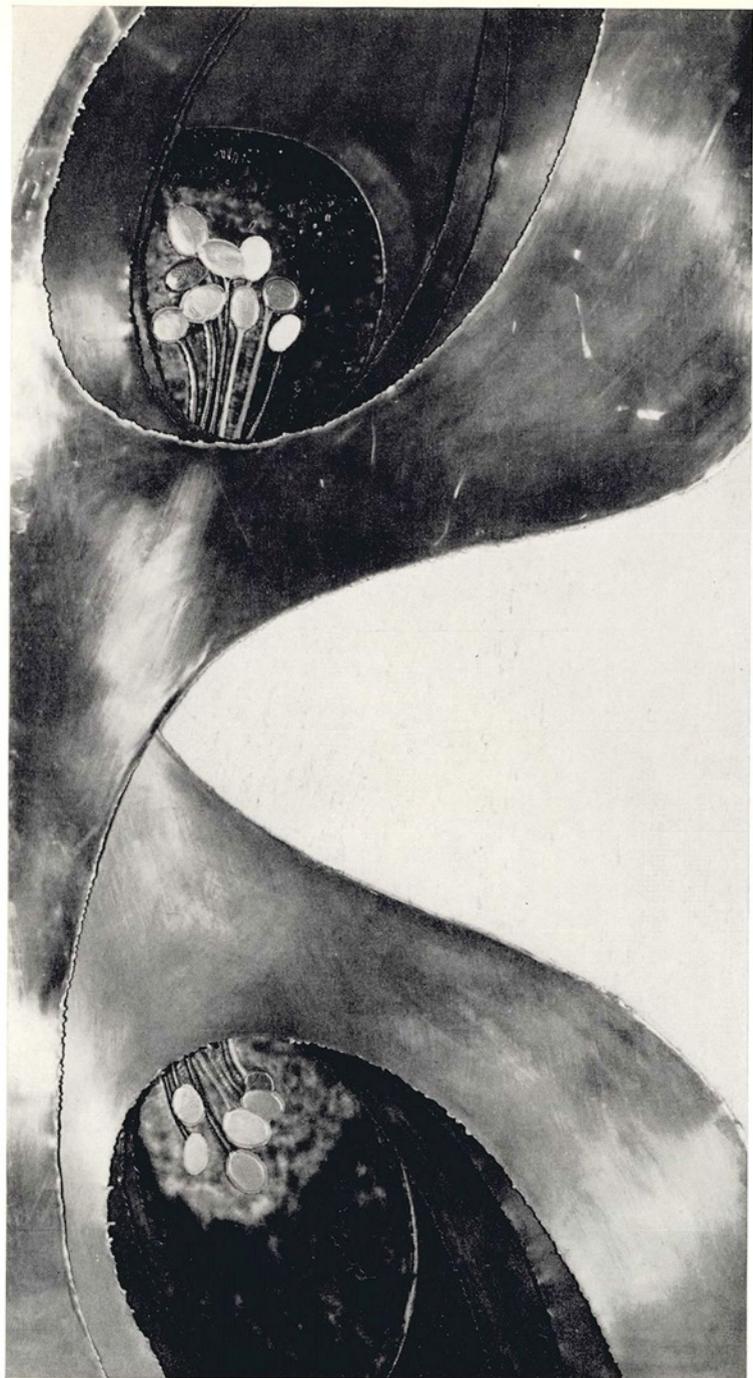
県議会議長賞 藤山貴司 風化(1) (洋画)



美術奨学会賞 関 正司 翼の無い鳥男 (彫刻)



美術奨学会賞 高橋 勝 旅行者の帰国とその構造 (立体造形)



特選 白井とみ子 ドリーム・クロッカス (工芸)



美術奨学会賞 浜田真爽子 紬着尺 (工芸)

水過梁

蘇軾詩
蘇軾詩以六月十五日
臨州世利於君使樓
上然而占余會於
妙多楚州乃別
余以十月十五日
與天守會於星
存長相以宮
長憶到時
倚日明月
送送形
隨入
孤光
同醉
漫然
從灘
作嘉
浮身
十有
必能
弟俊
求而
也
蘇軾詩

特選 山本撫嶽 蘇軾詩 (書)

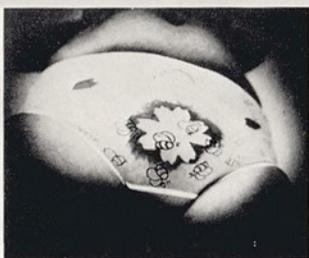
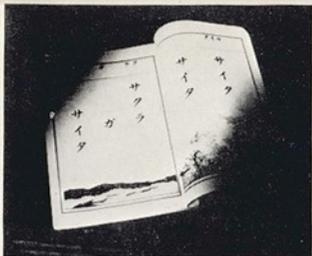
簾公去權勢 山館有 屈臣 炎燄 猶如此 況不世
池平 高車塵 滅 珠復 故館聲 寂際
錢滿 空庭 紫雲生 誰當 九原 上 樹國 望佳城

沈休文詩 上節係全不期并讀也子建中作 丹羽著

美術奨学会賞 丹羽著処 沈休文詩 (書)



特選 平本昌義 巡礼 (写真)



美術奨学会賞 佐治利雄 さくら悲歌 (写真)



美術奨学会賞 海老塚光男 私は明江ちゃん (写真)





美術奨学会賞 長島加代子 雪国のお彼岸 (写真)



美術奨学会賞 込山 武 富士三態 (写真)

コンクール部門出品目録

大 賞

大山 鎮 語り 日本画

県民ホール開設記念賞

谷川義美 腐葉土 洋 画

特 選

宇野圭一 夜 日本画

泉谷淑夫 幽愁 洋 画

白井とみ子 ドリーム・クロッカス 工 芸

山本撫嶽 蘇軾詩 書

平本昌義 巡礼 写 真

美術奨学会賞

関 正司 翼のない鳥男 彫 刻

河原 明 足が棒になった男 彫 刻

伊藤康彦 赤鉛筆・黒鉛筆 立体造形

高橋 勝 旅行者の帰国と
その構造 立体造形

浜田真爽子 袖着尺 工 芸

丹羽蒼処 沈休文詩 書

込山 武 富士三態 写 真

海老塚光男 私は明江ちゃん 写 真

長島加代子 雪国のお彼岸 写 真

佐治利雄 さくら^{エンゾウ}悲歌 写 真

県議会議長賞

藤山貴司 風 化(I) 洋 画

神奈川県立近代美術館賞

山田英男 面 II 洋 画

K 氏賞

長沢昭朗 痕 日本画

西田知子 創世紀 3 版 画

入 選

日本画

小玉文夫 湿原
 菊地清喜 製氷工場
 大島司郎 交叉「あしゅらⅡ」
 交叉「あしゅらⅢ」
 仲山計介 エオント No.7
 柳 績 シュノンソー城
 大倉葉子 少女ふたり
 川井勝美 暈
 林 道 萌（もえ）る
 石踊達哉 片隅の光景一夜（Ⅱ）
 保田吉治 杉
 竹川正俊 ワイングラス
 香野ルミ子 女達一秋想
 小濱由紀枝 生み残された生命
 飯野静江 遊
 野岬みつぎ 赤い顔
 三縄 健 樹 炎
 大嶋 実 唯 我
 平岡栄二 群 像
 加藤敏夫 HANA—1
 市川保道 讃歌（野）
 鈴木紀彦 墟
 市橋豊美 七彩鳥
 川村紫朗 ひがん花
 仙波存乃恵 クリスタル二題（空即是色）
 前沢幸三 枯野にて
 小島敬介 颯
 伊藤彰耳 證果（歩み）
 山中武夫 想

洋 画

青木道夫 私の準備室B
 ” C
 ornis B
 榎垣 檀 めじろ
 西岡隆男 ありさま
 別府妙子 梵（2）
 矢野正右 朱草の譜（Ⅰ）
 山田光孝 対岸Ⅰ
 松野俊雄 ふるさとの白い風
 香川 猛 望京（沖繩先島宮古から）
 谷川義美 やつで（Ⅰ）
 江川光信 港の憩いA
 佐藤平七郎 アムジイ風景
 梅田東己 内部一椅子の中で
 富樫京子 20歳の戦死
 西国 学 花飾りのある帽子
 吉田規子 征服されざる男ヤコブ
 塚越 仁慈 フェンス
 桂 宏 EPIC 2
 弘田 延 彷徨 B
 下蘭克秀 影 No.6
 加藤安佐子 声 明
 小林 守 画室の午後
 河本正雄 2人の老婆
 田中善明 働く人Ⅰ
 木村優博 家族
 原 のり子 憑かれた人
 柴山静穂 見知らぬ風景Ⅰ
 江野永青 飛傘夜
 菅野昌実 手 No.2
 三上 衛 セコピア昼さがり
 三村賢治 有 情
 木村暢雄 偽りの時の中でⅣ
 沢田 賢

奥田 紘 同罪史 C
 渋谷重弘 残り香Ⅱ
 本間芳夫 視覚の詩シリーズ 作品2
 臼井恵之輔 環 境 '74—3
 泉谷淑夫 永眠の終り
 田中栄一 アドリブ R
 上原一郎 線香花火
 北郷薫澄 広告のある壁
 間瀬 顕 ブルージェ
 河村春水 ファッション
 土屋罔代 IMA……1
 青木誠一 グロナの追憶（A）
 古沢 進 かもめとぶ港 B
 柏木隆一 朝のつどい
 SUGAI公世 1973年 忘却の町
 和田幸三 Mode—ake 2
 栗原正夫 瞑 想
 岩川幸弘 朝の体操
 馬場尚子 At that moment No.13
 At that moment No.14
 片岡聖子 回廊にて
 藤山貴司 風 化（2）
 井上和美 出 会Ⅰ
 高明石 作 品 A
 吉川廻元 9×13
 府川美枝子 回 想 2
 西村 充 凝 規
 加藤千枝 森の幻想—E
 広田 守 不 毛
 栄徳俊夫 プロムネ
 白石明夫 かって野原
 千葉文隆 室 内 5
 松原 賢 泡（Ⅰ）
 山田英男 面Ⅰ
 植田曠躬 虚構 74～6

伊藤幸照 わかれゆくものは B
剛 剛 団地—K
 団地—S
本田希枝 顔を選ぶ女達 I
西原幹 中世 II
村田勇三 作品「A」
藤山麻未 母の肖像
浅野輝一 街の残像 A
村田玲子 静物 II
高坂陽一 爾後
内柴静子 element (2)
佐藤隆良 浜
古館興 49150

版画

阿部つや子 ほおずきの咲く
遊ぶ
須山孝 海岸通I丁目
野原松栄 BLUES
高岡松夫 人リーズC
関根希海雄 私の場所
私の空間
北川健治 MAN—WALKING
午後
西村宗介 テトラポットのある風景 5
テトラポットのある風景 7
白駒敏夫 木立ちの丘
井口則夫 Draw your face here: II
曾我朝彦 抵抗
青木幸生 小紋の譜
白井良技 壁 8
西田知子 創世紀 4
長谷悦子 風の日には
風蝕

山野辺義雄
杉浦安史
浜西勝則
五島三子男
一色智嘉子
白川雅啓
延岡博昭
天野純治
石谷隆明
原田映爾
滝上やすのぶ
川瀬きみ子

佐久間恭子

彫刻

森田やすこ ある日
大内稔 島民
小沢史雄 禅僧(巖)
吉田和央 雨
佐藤千枝子 画学生
清水誠一 想
角野竹博 跳
柏原花子 立像
小泉勝雄 内面の動き(一個・生命)
加藤かずこ 首—M
神山茂樹 男の首
呉昇一 ゴンの首
杉山惣二 迷路
金子篤司 女
久富金之助 黒い聖母子
平田タテラ 炭化

“Mustache-Man in the
Box” — Work No. 7—
“Box” work 10

鉄棒
森の中で
untitled
(八丈島短波跡にて) G

モトクロス I
Perception No. 4
Scope—2

複製・反復事物から物へ
MAKE Up No. 3

作品A
椅子
CONVEYER PLAN II
GIKŪ—I

SEI—I II

黒い川

立体造形

ニシワキユリカ ある石彫「虚」
加藤義郎 空気の重み A
中島憲一 太陽の庭
<斜塔のあるエロス庭・
ブルーホール>
塩川甲子夫 面壁
赤前江萌 宙針
中村ミナト one work
片岡世喜 日常性の中で
佐々木和代 三径
一色智嘉子 展望 I—II
北沢一伯 場(もしくは、水平のため
に)

工芸

吉田きみ子 星をめざして
熊沢厚子 破(は)
榎本末生 円筒の詩(うた)
和久井雅 知る
太田光子 緑の幻想(鎌倉彫)
久野正雄 鎌倉彫丸盆
星野光雄 波文鉢
金沢良エ 三つのざくろ
渡部はつ子 創
永田秋岳 額(鯉)
村上たま 飾皿(梅)
大菊昭治 巢立ち
大東律子 モニュメント 74
斎藤智子 相樹
青木英子 開
丹後恵喜子 青の静寂
岡本伸子 椿文飾皿(彫金七宝)
三木たみ子 紬織着物 木斛
後藤寿美恵 つづれ壁飾
昇天

小林信子 染額「夕映」
赤羽章子 作品「16」
江成房子 ながれ
森脇敏 跳 V
林喜美子 海の仲間達
佐野陽三 グリ香合
新館二葉 貝(着物)
近弘 器局
堀久代 K & H
谷道和博 憩
林亘 クリスタル高坏
狩野炎立 遺物
田村倭文子 紬格子
原田敏幸 飾箱
佐久間健一 飾宮「かげ」
副島てる子 むさしの
二宮義之 市松文様寄木文庫
松岡和子 マヤの神聖文字
乾定夫 炎想
渡辺恵美子 衝立
大宮希敏 ミニコスモ No.5
川鱈寿文 トビラ試作 2
安藤泉 穀
関田栄也 誕生への原点
高橋義雄 魚たち
丸山千寿 搔落 作品A
広瀬光子 花器
川地明子 反照
室瀬和美 蒔絵紅葉の柵
安田律子 長方皿
窪倉えつ子 水色の詩
桂雅子 レクイエム No.2
鍛代美紀子 トルソ
香川たえ子 炎
古尾谷育代 手織絞りひっかき染布

森田洋子 花器連作「対話」
佐々木ゆき枝 夜みち
倉田忠治 油滴天目釉皿
楠原節子 紬織「霜の花」
山村助成 黎明の流れ
樋村允彦 '75 態 II
森かよ子 夏の詩
国行道子 La larme
空閑素子 風の指紋
高橋真樹子 海のしらべ
安藤弘子 Tomorrow
湯村京子 幼稚園
脇智子 芽
松岡哲 灰釉皿
橋川和男 野分(盛器)
綿貫清 透紋松葉編華盛籠
長友暁子 タベストウリーNo.1
" No.2
鐸木能子 奇跡
藤塚洋史 静
河合楽子 花
杉山ななみ 花器
西尾重健 紋様
西村妙 五月の風(彩漆リリーフ)
青木あみ子 乾漆壺
市村富美夫 都会秋 そして冬
加藤貴子 課題
菅野健一 Cloud……
鎌田恵子 森
書
武藤香逸 七言二詩(春)
景山華峰 伊勢集
小林光葉 李白詩(早発白帝城)
秋田和子 貫之集

伊藤明博 唐詩
大村雅子 近代詩
川瀬魚石 近代詩文
佐藤義美作「昼のお月さん」
金子如龍 高啓詩
小林小笛 あを雲を(和歌3首)
小斎藤湖石 近代詩文(水車)
嶋田匡峰 李白詩
溪口紅洋 杜甫詩
竹下幽光 元好問詩
竹内鳳仙 鶴
高木幽芳 李白詩
沼田雅子 司馬道士の天台に遊ぶを送る(宋之間)
万本素雲 春夜洛城聞笛(李白)
森山景苑 新古今集(秋上)
大庭紫苑 新古今集(春のうた)
日野光子 長秋詠藻
篠田朋泉 黃庭堅詩
松橋勝子 古今和歌集
木下達 嵯峨途中
千葉南道 蘇軾詩
川口流坡 蘇軾詩
村上紫茜 蘇軾詩
水川舟芳 送王郎(黃庭堅詩)
藤谷流翠 唐詩七律
河野松藍 和泉式部集 五首
阿部啓圃 万葉集
八隅啓明 李白詩 古朗月行
栗原秀坡 七絶七首
石井澄水 王維の詩 藍田山石門精舎
遠藤正枝 小島切
秋山松香 新古今の歌
久保田昭子 和歌
真柄百合子 元永本古今集抄
高井昭子 佳宮舊藏 万葉集

平田十臥 登総持閣(岑参)
 関口大湫 漢詩
 和氣清堂 李白詩 五絶
 加藤翠郷 魏徵詩(五言古詩)
 柳直市 白楽天
 早瀬香谷 良寛詩
 赤松萬寿枝 西行のうた
 鈴木草処 寒山詩
 吉田静江 寒山詩
 廣畑筑洲 張景陽の詩
 村田瑤処 陶淵明
 本田梅処 吳偉業詩
 長田研処 陸游詩
 加藤州處 唐詩選
 原一江 韓愈の詩(秋懐の詩)
 佐藤悦子 寒山詩
 鈴木幸子 元好問の詩 2首
 佐藤政也 陸游詩
 吉村影処 李白詩
 塚越博 七言絶句
 中島弥栄子 草書 七言絶
 藤城英吉 草書 漁文辞
 横田南畦 沈佺期
 野沢治夫 唐詩 七絶二首
 田口孝一 杜甫詩
 吉沢菁妻 李白詩
 菊地寿子 関戸本古今集
 西田静夫 李白 飲中俚歌
 瀬戸翠谿 良寛詩
 林如巖 良寛詩
 小卷仙空 陸游詩
 甘粕如香 良寛詩
 鈴木明如 良寛詩
 小川如泉 良寛詩
 石井蘭如 良寛詩

陳撫鳳 蘇東坡詩
 矢島撫周 皮日休の詩
 伊藤撫劍 李嘉祐の詩
 渡辺瑞穂 張祐の詩 二首
 四宮撫琴 蘇軾詩
 平田白虹 賈島詩
 奥田撫香 劉滄の詩
 吉田春翠 王維詩 二首
 代田寶山 溝口桂巖詩
 榎本桂川 万葉歌
 岩崎敬子 光明皇后 御書
 鈴木鶴芳 紅梅
 船本芳雲 自作の詩 かもめ
 広橋晴 苔
 田中茂子 松風
 大矢鳳城 自作詩「麗人之詩」

写真

長谷川 浩 ぼくたちの広場 1
 ぼくたちの広場 2
 ぼくたちの広場 3
 牛田恵美子 秋霧
 松永春 流れ 4/4
 流れ "
 流れ "
 流れ "
 垣内治雄 ソビエト紀行・
 ビロシキ売り
 宮崎司好 冬の朝
 斉藤裕太 LABORER '74 (ROMAN)
 小川流 修行僧(1)
 修行僧(2)
 渡辺一彦 若者の季節
 関行敏 都市新宿
 都市新宿

鷹荷三郎 富士にかかる笠雲の形成
 富士にかかる笠雲の形成
 渡辺憲一 待ち時間
 青田吉生 接收地
 武田聡 合気道 No. 1
 合気道 No. 2
 森繁秀夫 三猿
 三猿
 三猿
 瀬沼章夫 管生太鼓
 片平正義 作品 No. 32
 鯉登勝彦 非人面師
 末信重明 吉日
 浅見清 ポートレート
 佐藤裕弘 成吉思汗鍋
 田辺昇一 追憶
 金親敏雄 だろんこ祭り
 だろんこ祭り
 小池将夫 タイヤル族の女
 タイヤル族の女
 タイヤル族の女
 タイヤル族の女
 鷹羽金蔵 陽の詩
 陽の詩
 陽の詩
 馬場純一 風景
 岡田和雄 待つ老嫗
 長谷川 潔 斗士去る(旧横浜国大)
 斗士去る(旧横浜国大)
 林 勇 才子悠々
 才子悠々
 加藤惣平 相模野
 深瀬 彊 湖辺
 木村勇一 閑静
 真殿礼次 修行僧

千屋 栄市	波	三橋 松太郎	舞台俳優 金田龍之助 稽古場から	小林 富一郎	都市化の波
佐藤 清	祭りの日	佐々木 弘	高山	相沢 正一	防犯の季節
山下 宝	吹く日	高橋 亜弥子	抱擁	益子 七郎	すたれる田舎祭
柳井 秀芳	獅子舞	古沢 貢	ワン君 閑日	竹山 保男	我が家のベット
	獅子舞	水沢 清之	閑	藤倉 忠明	湖底になる里 (宮ヶ瀬)
三井 文一	雲海	深田 政寛	托鉢		湖底になる里 (宮ヶ瀬)
渡辺 満	団地の子供達		托鉢	伊藤 慎一郎	妻籠宿
	団地の子供達	坂内 一夫	托鉢	平林 利明	初秋の頃
	団地の子供達		托鉢	山田 益夫	黒部の印象
	団地の子供達		冬立つ (1)		黒部の印象
伊東 弘	春山		冬立つ (2)		黒部の印象
	春山	市川 清	青春	佐藤 正一	反映の森
菊地 喜保	占師	松沢 正芳	雨あがり	秋山 健司	妖木明暗
	占師	村沢 昭夫	車道に遊ぶ	李代 新一	夏山の夜
	占師	水野 紘一	雪の大内 (1)	石川 正秋	ドック
井上 仁官	晩秋		雪の大内 (2)	榎田 守	ある風景
松島 義行	ふるさと	里美 杏由子	街角	山本 昌造	花火
	ふるさと		街角	横山 祥一	石仏
	ふふさと	石田 彌吉	海辺の女	石川 正隆	光と影
	ふるさと	早坂 裕克	花火	渋谷 重信	漁具
	ふるさと	井本 恵子	女の化粧	大沢 利男	上高地の秋
	ふるさと		女の化粧	田中 清隆	モンブラン
今井 重幸	湯立獅子舞	塩原 康八	鎌倉 1	川端 積造	黒衣の女
鈴木 英雄	さくら		鎌倉 2	池田 高治	岩礁
坂田 康雄	静寂	鈴木 正一	昆布浜の印象		
石川 三男	ひまわり	高橋 勤	バスストップ		
佐藤 進	鳥居	堀坂 和夫	ゴール死守		
前田 光夫	ふる里は今 (一松尾鉦山一)	望月 資介	信徒		
まなべかずこ	途	伏見 宏	失われゆく農村		
臼居 一雄	夏の終り	笹尾 佳夫	誰かににてる (食用ガエル)		
佐野 幸弘	月光富士	吉田 健吉郎	出稼ぎのA君		
飯田 一雄	がらくたの中の夢	熊谷 勲	霧の中		
	がらくたの中の夢	小倉 直美	本物かな		
	がらくたの中の夢	青木 繁雄	ボク達飼いや馴らされました		
御守 康郎	躍動	江口 多鶴	洪水をうけた県道		

コンクール展講評



審査風景

日本画

前年度と比較すると応募点数が倍増したので、入選点数も昨年の約2倍の32点になった。しかし、この倍増が単に機械的な倍増ではなかったことをおことわりする。そこには質的な進歩が十分に認められたので、最初の選別を終えてからは、各審査委員が何度去就に迷うようなことがあったか判らなかつたことを自白しなければならない。それほど、今回は表現力の向上とともに、絵画的把握が非常に適確になり、作者の主張が画面上に強く描かれていたのである。ちょっとした思いつきを絵にしたような作品が殆んど目につかなかつたことは喜んでいいだろうと思う。いずれにせよ、本展定連の有力作家が毎年の中央画壇へ成長してゆくため、僅かずつながら本展には新鋭作家の登場がつづいている。中でも「製氷工場」を描いた菊地氏や、「痕」の作者長沢氏、「墟」を描いた鈴木氏、「阿修羅」の作者大島氏など、堂々たる力作が目立った。廃船を漆黒の中に白く浮き上らせて現代の公害を語る「痕」や明るい表現で現代的な仏画を追求する「阿修羅」などの努力作に対して、今年も白と黒だけの裸婦を追いつづける宇野氏の「夜」と、力強いタッチで近東の人物群像を大まかに把握しつつける大山氏の「語り」は、一貫した不動の作画態度で次第に深く掘り下げてゆく画境が、われわれを唸らせた。立派な出来栄をたたえずにおられない。

(竹田道太郎)



審査風景

洋画

神奈川県美術展も第10回を迎え、神奈川県美術展の歴史が、ある伝統を築きつつあることを、まづ最初によろこびたい。

神奈川県美術展に限らず、美術団体がひとつの標準をもちながら持続することはたいへんに困難であるが、神奈川県美術展が、ある高度な標準を維持しつづけてきたことは、神奈川県下の新人作家、美術愛好家のために、ともによろこぶべき現象といわねばならない。

今年度のコンクールの標準も、例年と変らなかったように、ぼくは思う。大賞、その他の賞の決定は困難であったが、選考委員の討論の結果、大賞その他が決定された。

ここで油絵作品のみについていえば、記念賞の「腐葉土」、特選の「幽愁」、県立近代美術館賞の「面Ⅱ」県議会議長賞の「風化Ⅰ」は、選考委員の討論からもなかなか決定しがたかったが、決定しがたいそれぞれの性格的な画面であったからである。

頭蓋骨と田舎家とを二重映像にした谷川義美氏の「腐葉土」は、堅実な技術の累積を思わせ記念賞を受賞し、超現実主義的な社会諷刺を示した泉谷淑夫氏の「幽愁」は、やや類型的であるのをまめがれなかったが、特選をうけた。山田英男氏の「面Ⅱ」は、デザイン化された画面であるが、清潔で大胆な構成と色彩効果をもつことによって県立近代美術館賞を受賞し、県議会議長賞には藤山貴司氏の「風化Ⅰ」が受賞している。

ついでに、K氏賞についていえば、K氏賞は鎌倉の県立近代美術館の略称で、賞の数の制限のために受賞しなかった作品に対して、戦後、毎日新聞社主催の国際美術展や現代日本美術展などでしばしば贈られ、このK氏賞をうけた作家は、その後注目されつづけ、時に現代美術の指導的な役割りを果している作家にも贈られた名誉ある賞である。日本画の長沢昭朗氏の「痕」、版画の西田知子氏の「創世紀Ⅲ」は、そういう意味でK氏賞を受賞された。

最後に、現代日本美術が、時に停滞し、時に極限的な様相を示しているときに、神奈川県美術展のコンクール部門から、清新な原動力となる新人作家の出現を希望してやまない。

(土方定一)



審査風景

版 画

一口に言って、たいへんレベルの高い122点が搬入された。その限りにおいて、県展というニュアンスからくるローカル性を感じない。このことは一つの問題の提示にもなっている。

この部門の審査は、斎藤 清、島 洲一、野村 博の三人によって行われた。入選点数は展示上の諸条件によって見当がつけられたことはいうまでもない。つまり入選とするにはどうにも耐えられないほどの作品はなかった。できれば全部を展示してあげたかった。

このことはしかし、腹藏なくって大賞、その他の賞に魅力があること、他の県展や公募展に類をみないほどだから、恐らく大賞を目指して、大賞向きの力作を寄せられたものもあろう。だとすればまず、部門別審査の関門を通らねばならないため、この段階で左右されて、ついに目のめを見なかった不幸な応募作品もあったかも知れない。

版種や作品の傾向は、いかにも現代の潮流の方向をここでも示しており格別ではない。その潮流に先鞭をつけたり、逆流の完璧な姿勢をみせるほどのものは、残念ながらみられなかった。

山野辺義雄氏の作品は群を抜いており、招待部門に推せんすべきだとして、賞候補の対象から外されたが、それによって問題があるとすれば、責任はわれわれ審査員に帰すべきものである。

(野村 博)



審査風景

彫刻

入選者にくらべて、賞は、少なかった。しかし最初の頃より、水準はかなり高まった。それでもまだ昔の名作の再現をしようとしたものがあつた。此の種ものは選の対象にはならない。また全く異つた様式の二作品を出品した人は、どちらも自分のものでないことになる。先人の様式或は技術を拝借している人達に云いたい。

創作となる為には、いくつかの条件があるであろうが、少くとも自分の様式の発見と、独自の技術の開発が革命とも云う可き新しい領域に到達することこそ望ましい。技術の問題が特におろそかになっている様に思われる。

もっと技術の発展研究に意を用いてもらい度い。技の発展がどれほど作品の価値を高めるか、先に賞を得た人も、数年前と少しも変わらないのは残念なことだ。先人の様式と技法をそのまま拝借するのは恥しいことだ。反面あまり自分の様式を急ぐあまり基本を忘れると、のびがなくなる。行きつまつた時スランプに落ちた時は、も一度基本に立ち帰り、基本からやり直すことによって新しい道が開けると思う。

(菅沼五郎)



審査風景

立体造形

ここ数年来、立体造形部門の作品のレベルは、一部のものを除いて、だいたい安定してきている。そのためか、安心して作品に接することができるが、いざ審査となると、どの作品も優劣をつけ難く、大変骨の折れる思いをした。これは、別な言い方をすれば、30数点の中には、見る者の胸につきささってくる、とび抜けた作品が少なかったということでもある。

立体造形部門の作品に、特に期待するものは、従来の美術のジャンルにこだわらず、自分の思うこと、考えることを思い切り大胆で直截に表現することだが、全般には、今一つ大事なものが足りないように思えた。

審査は、発想の斬新さ、素材の生かし方、表現技術の確かさなどの視点を総合してみても、賞候補として5点推選した。最終的には、他部門との合同審査の結果、二点が受賞した。そのうちの伊藤康彦氏の「赤鉛筆、黒鉛筆」は、ともすれば、我々の意識外にある身近かなものをモチーフとした作品だが、何んともいいようのないユーモラスな感じが際立っていた。しかし、作品の内容と会場の空間の広さを考えると、大きさに対する配慮が今一つ足りないようだ。高橋氏の「旅行者の帰国とその構造」は、この数年、くり返し追求している記録の封じ込みシリーズの作品だが、今回の二つの鞆の組み合わせが、今迄のなかで一番内容の密なものになっている。

その他、賞には洩れたが赤前江崩氏の「宙針」、一色智嘉子氏の「展望Ⅰ-Ⅱ」北沢一伯氏の「場」などの作品も印象に残り、今後を期待させる方向を目指しているように思えた。

(斎藤顕治)



審査風景

工 芸

今年の工芸部門の搬入数は210点と大幅の増加を見た。県民のこの展覧会に寄せる関心が回を重ねるにつれて増大しつつあることは誠に喜ばしい現象である。しかし中にはいわゆる手芸品ともいうべき、手すさび程度の出品も多く、厳選の結果は入選85点という、昨年度を僅かに上回る事で終わった。又一方受賞候補作品の選定に当っては特にすぐれた作品が少なく、稍頭打ちといったかたちで物足りない感があった。これは優秀な作家が次々と受賞して招待作家の列に入り、一般公募から遠ざけられたためと考えられる。この問題は次回からは大いに一考を要するものと思う。少くとも三回位は受賞の機会を与え安定した作家に育ったところで招待作家とすべきではないだろうか。又工芸部門の受賞が確実なところ二人ときめられたのも、新人発掘もその一つの目的とする本展の意義からも稍遠のいた感がある。勿論いわゆる総花式の授賞には却ってマイナスの多い事ゆえいましめなくてはならない。

ともあれ出品の方々も工芸というものの本質的な意義を正確にとらえ、基礎的な技術をよく訓練して、時代感覚をよく表現出来る作品を発表される事を切望するものである。

(赤地友哉)



審査風景

書

第10回展の応募作品は、量・質ともに格段の向上を見たことは、県民ホールの新設に呼応して本県の書の水準の上昇を如実に物語るもので将来に明るい見通しであり、喜ばしいことである。

本年の上位入選作は、さすがに内容の重さがあり、過去十年を省りみて感無量なものがある。

次年度に望むことは、近代設備を誇る会場にふさわしい作品効果をあげられるように、素材・表装等にも一段と心を配られることを願いたいものである。

(殿村藍田)



審査風景

写真

新ギャラリーの開設記念にふさわしく優秀作品が数多く集ったことは嬉しい限りです。入選作品60余点中、Aクラス作品が25点あって、その中から5点に絞るのに相当の苦心を要しました。

特選の平本昌義氏「巡礼」は、カビネ100点で構成した、自己の周辺から各地の風物を巡礼行者のような気持で、写真を写して行脚した集大成で、年月をかけた作品です。一枚一枚の写真がどうこういうより、積み重ね方式の勝利だと思います。美術奨学会賞4点の内、込山武氏「富士三態」は、富士にかかる笠雲の面白さで、富士三態をよくまとめました。富士山という題材は、通俗的になり勝ちですが、渋い色彩で重厚な風景にしました。海老塚光男氏「私は明江ちゃん」は、団地アパートの生活がよく出ています。これも自分の住んでいる団地の生活を、歳月をかけて温めた作画意図の成功でしょう。長島加代子氏「雪国のお彼岸」は、お彼岸の日に祖先の墓に花を供える老婆の情景ですが、これが雪国の深い雪の中のシーンだけに感銘があります。佐治利雄氏「さくら悲歌」は、感覚的な作品でさくらに因む作者独自のパターンの連作で、ユニークでした。神奈川県下の諷刺作家として実力第一の作者に今後も期待したいと細います。賞の数が少ないために、賞を逸した惜しい作品が何点かありましたことを附記します。

(奥村泰宏)

招待部門作品目録 (50音順)

日本画

浅見信夫 野
上田臥牛 母子
小倉遊亀 青梅と古壺
加藤東一 静物
故小島一谿 木曾寝覚の床
小島昇 サンジュミニアーノ
小松澄佳 舞妓
鈴木竹拍
月岡栄貴 爽やか
中島清之 朝
森戸国次 麗明富士
安田靉彦 磯風
山本丘人 少女の森
結城天童 花と少女
渡辺幸雄

洋画

青木一美 少女
赤岩賢三 レッスン
浅生田光司 冬山寸景
阿部和美 ベニス
荒井茂雄 楽園
新井康須雄 風景
故有島生馬 夏の庭
安喰虎雄 静物
安保健二 オンフルール港
飯島義也 静物
井口啓 子供の群像
市川勉 城塞
伊藤愛子 時刻の考証
石井佐一 雪が降って来た
石井光楓 湖畔
石川武彦 風景

石田精吾 女
稲木秀臣 作品
稲葉治夫 ストライプス
井上俊郎 群像
猪瀬踏花 村はずれ
岩田栄之助 金時山初秋
岩館知義 雪の風景
宇都宮マリ
梅林良子 作品 A
江添栄一郎 砂漠の廃墟 SILKROAD
越後島芳明 風景
江波伸 作品 1975-10
江見絹子 作品
遠藤典太 花咲けるさるすべり
岡野正樹 栄光の塔 (スペイン・トレド)
岡村芳男 野の花
勝田寛一 裸婦
加藤秀夫 人形
加藤義雄 秋の庭
金沢博 海
金岩清隆 鳥
川口雄男 雨後のシュリー城
川口栄 信濃の秋
川島実 東北秋景
菅野功 静物
北岡数彦 松原湖の夕映
木下公男 スペイン
木下寿々子 マレーシアの少女
木下米子 花
木村一生 気配
木村光江 静物
木村良枝 coiling
熊沢淑 雅
小泉元生 風景
国領経郎 二人

小関利雄 風景
後藤武久 トレド
小林義範 作品
小山敬三 紅浅間
阪本文男 …「ざくろ」
「ひまわり」「紙」…
桜庭彦治 札幌秋色
笹英子 石切場
佐々木文綱 アイススケート
佐々木雅人 燦
佐藤努 カペナウムの夕
佐藤美子 芒
柴田周一 The seasons come round
柴田善登 風景
島田四郎 風景
志村計介 風景
白鳥三郎 印度
杉浦勝人 静物
杉本賢司 くさむら
勝呂忠 人間像
鈴木雪子 バラと人形と
鈴木充朗 風説
瀬島好正 かたち
千田高詩 LA VIE
添田定夫 風景
大道健治 水門
高瀬哉冲 群像
田賀亮三 人魚
武林敬吉 壁
田沢茂 民話
田代利夫 スラブ No 7
田中岑 アトリエのモデル
田中寿太郎 工業地帯
田辺謙輔 メキシコ風景
塚谷恵津子 静物

塚谷 博 早春
 塚本 茂 裸婦
 鶴田 猛 駅前の人
 出口 常智 冬の夜祭
 出口 竜王 Shop
 寺井 重三 踊り子
 寺田 春弑 花容
 戸津 文雄 雪梅
 土井 俊泰 風景
 内藤 雅彦
 中西 新太郎 故里
 野口 弥太郎 映光(カンヌの港)
 野村 光司 風景
 中谷 龍一 郊外の家(仏)
 永井 肇 真昼の風
 長宗 希佳 人のいる風景V-II
 服部 和益 祈り
 樋口 善一 アルプスの春
 広瀬 一二 URO
 古川 益弘 風景
 細井 千鶴子 無題
 前川 佳子 作品 74
 増田 常吉 風景
 松本 久男 箱根晩秋
 三樹 保 マレー区の古い家(パリー)
 三橋 兄弟治 クエンカの秋(スペイン)
 源川 雪 風景
 森川 ユキエ 赤い花
 森 秀男 寂-75-1
 森 秀雄 偽りの青空-秩序な風景
 安富 信也 風景
 矢野 雅章 朝陽
 山下 征治 人物
 湯川 治郎 静物
 油野 誠一 聖者の庭

横尾 又夫 仏跡
 善浪 迪 箱根富士
 吉崎 道治 風景
 和田 松久 座せる女

水彩画

田中 君江 長崎風景
 進藤 清 風景

版画

岩見 禮花 水の対話
 大内 マコト AURORA
 斎藤 カオル 風
 斎藤 清 パーク(ハワイ)(A)
 斎藤 寿一 宙
 佐々木 英夫 人間の風景
 島 州一 泉宮汲沢団地
 田島 宏行 緋色の輪
 野村 博 1週間と24時間
 馬場 橋男 記念写真
 馬淵 聖 静物
 棟方 志功 釈迦座の柵

彫刻

浅井 行雄 立像
 伊藤 芳雄 大ありくい
 井上 信道 作品
 井上 玲子 起ちあがる形
 圓 鏗 三 誕生
 圓 鏗 元 規 汀
 垣内 治雄 安芸の娘
 斎藤 顕治 作品 75-1(地表の景)
 坂上 政克 G5
 菅沼 五郎 作品
 高田 博厚 イザベル・ルオー

千葉 精一 瞑想
 長江 録弥 聖説
 西谷 富士雄 若い女
 松本 繁来 裸婦
 溝口 寛 さよなら夏
 榎山 三穀 壺
 安田 周三郎 頭蓋L

立体造形

伊藤 隆康 ALUMINIUM
 and BRASS
 今井 由緒子 波状面上のHIP
 高木 敏行 秋の終り
 菅沼 緑 愛発射又は一人トランプ
 密波羅 伸三 045-S-ドライブ
 山井 イク夫 LANDSCAPE-蓄積と拡散

工芸

漆芸 赤地 友哉 曲輪造り彩漆小盆
 赤堀 郁彦 永遠の層
 飯野 啓三 街
 岡村 康子 金線水指
 硝子 青野 武市 クリスタル花器
 各務 鑽三 クリスタル花器
 小林 貢 青のフォルム
 吉田 丈夫 響炎
 金工 石川 充宏 ガール・イン・ミラー
 今井 久江 蹟
 中田 呂尚 瓢腰州浜霞文釜
 永井 鐵太郎 オーガニック・
 コンポーズ
 大塚 陽子 春のささやき
 舟越 健次郎 白い橋
 染織 故磯 部 陽
 神山 尚子 紬織着物 春 営
 暮田 延美 ローケツ染 朝

佐藤 もとい 草木染唐草文訪問着
 廣井 樹美 花
 平田 徹子 洗
 山岸 南子
人形 市橋 とし子 温もり
 小菅 春代 流紋
 野田 芳正 想韻
 橋本 公恵 蛩
陶芸 小田垣 要司 作品 3
 加藤 皇 波紋
 河村 又次郎
 小嶋 章光 方壺
 小竹 雅山 沢袖の壺
 芝山 吉邦 作品
 鈴木 三成
 高垣 婦泥 壺
 南雲 龍 失われた時
 林 良達 環と角のハーモニ
 平野 トシ子 染付上絵 鉢
 三浦 勇 室内装飾 パネル
古代の人々
木竹 木内 隆男 隆起
 馬場 松堂 竹花器
 松井 三郎 球の棚
鎌倉彫 小野 次雄 鎌倉彫盛器
 尾留川 忠 花器
 後藤 俊太郎 龍
 竹内 佳夫 作品 No 75
七宝 佐野 登志子 空
 水野 矯夫 花と少女

書

青木 香流 わらべうた
 天野 翠琴 ゆすら梅
 荒井 香竹 高村光太郎の詩
 荒木 幽芳 牧水の歌

飯原 青洲 李白詩
 池上 鶴洋 蘇軾詩
 鶴飼 寒鏡 古意
 及川 初恵 万葉の歌
 大島 崑山 蘇東坡詩
 大西 芳流 雲心
 岡田 扇香 和泉式部歌
 川口 芝香 萬葉の歌 明石の浦
 斎藤 丹鶴 泉
 佐々木 如空 良寛詩
 志賀 正枝 和歌
 重田 翠村 王漁洋詩
 島津 碧崑 李白詩
 鈴木 小江 習作
 鈴木 龍雲 鮑容詩
 仙場 右羊 名花十二客
 大道 静波 李賀詩 残線曲
 高木 三甫 万葉歌
 竹田 悦堂 歌一首
 溪口 幽城 孟浩然 春曉
 田中 真洲 物華初煥爰
 殿村 藍田 紅梅
 中平 南谿 幽趣
 中牟田 幸子 無
 中村 松堂 松堂作七絶
 中山 鶴雲 万物静観
 長島 南龍 天心
 西川 万象 白楽天詩
 西村 西洲 般若心経
 萩原 櫛風 王漁洋詩
 比田井 南谷 74-2
 船橋 春浦 古歌
 松岡 東庵 明人五絶
 松本 利一 座右の銘
 山口 清苑 五言律詩

吉田 蘭處 姚撓詩村行

写真

青木 誠三郎 横浜山手より
 伊藤 藤十郎 ああ危い
 内山 知治 夏も終る頃
 大谷 正夫 まち
 奥村 泰宏 アンコ椿は恋の花
 影山 光洋 桜島噴煙
 里見 力麿 売る人、買う人
 塩田 正男 インドにて
 須田 恒弘 山肌
 鈴木 健夫 港マチブルース
 常盤 とよ子 ソビエトの旅より
 中島 倍三 ふるさとの夏
 永田 一脩 プーキンを通った路
 (中央コーカサス)
 野沢 喜七 新旧女性の森
 浜口 タカシ 愛情
 平山 勉 離島航路

顧問出品作品



安田靱彦 麗明富士 (日本画)



小倉遊亀 青梅と古壺 (日本画)



中島清之 爽やか (日本画)



故有島生馬 夏の庭 (洋画)



小山敬三 紅浅間(洋画)



野口弥太郎 映光(カヌの港)(洋画)



棟方志功 釈迦座の柵 (板画)



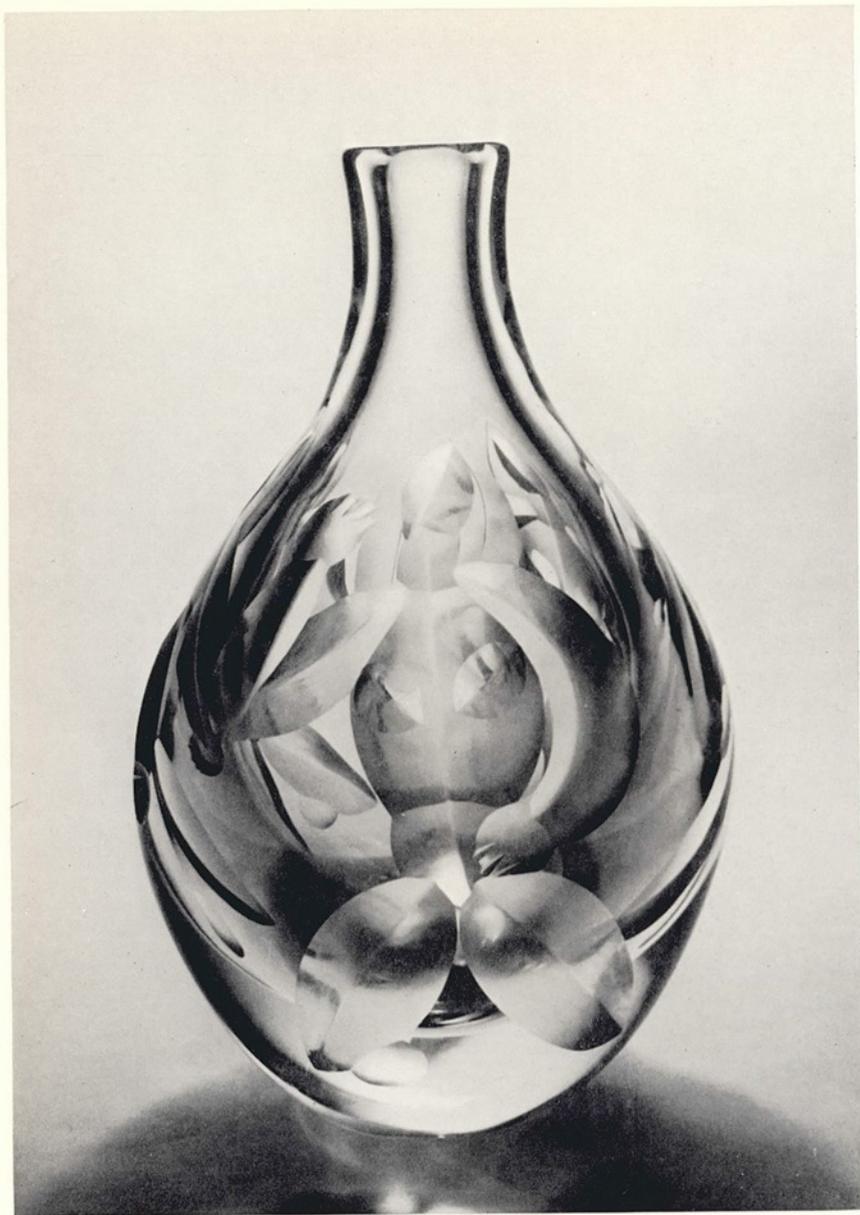
高田博厚 イザベル・ルオー (彫刻)



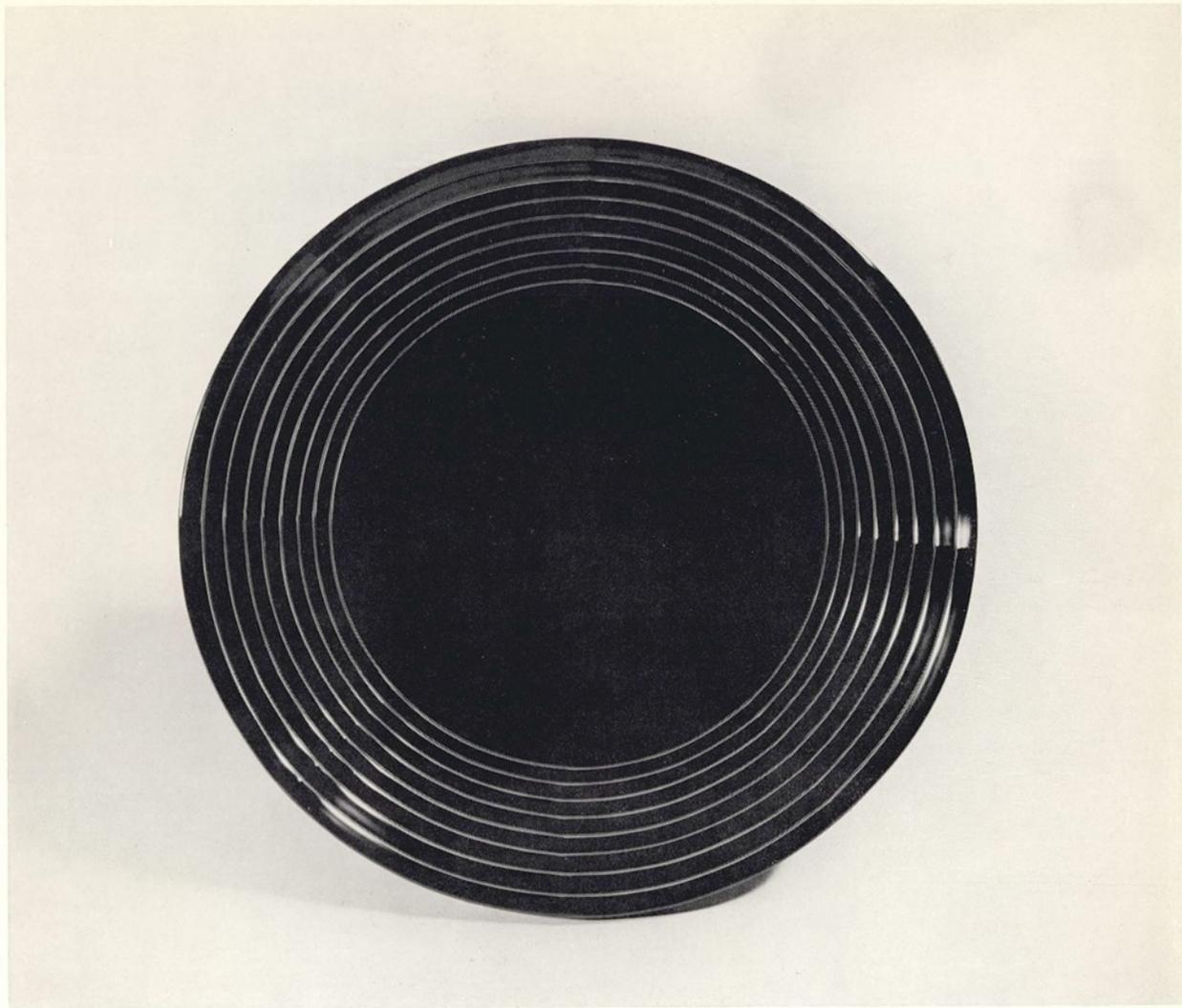
圓鐔勝三 誕生 (彫刻)



安田周三郎 頭蓋L (彫刻)



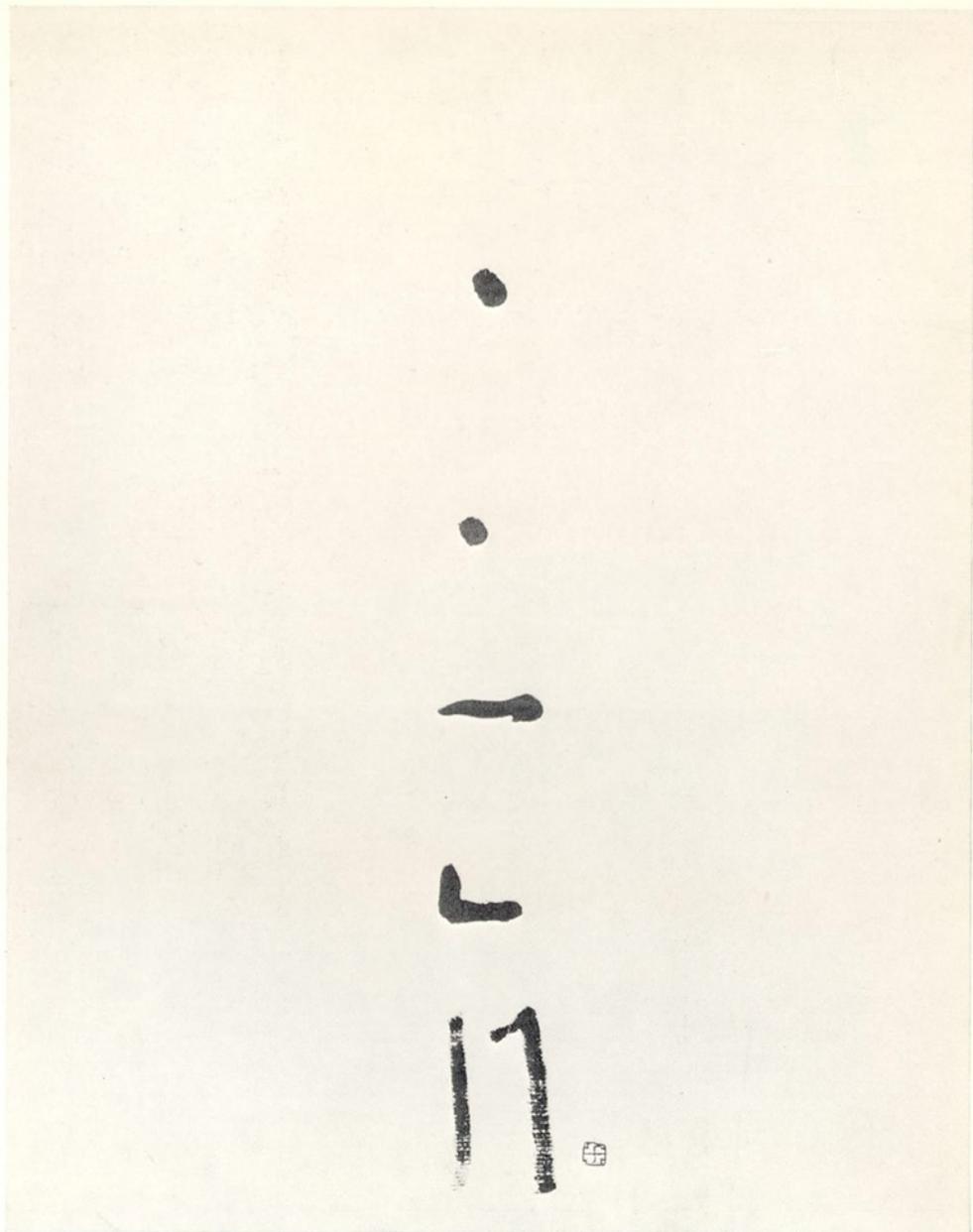
各務鑑三 クリスタル花器 (工芸)



赤地友哉 曲輪造り彩漆小盆 (工芸)

空裡問去却是這般人
 道相合原意相與猶未
 子顯後轉意一揮掃了
 古本點海破公年上枝
 新裁
 高田藍村
 世亨
 安
 雪
 天
 桃

殿村藍田 紅梅 (書)





影山光洋 桜島噴煙 (写真)

発行 神奈川県美術展委員会

デザイン・レイアウト 金沢博

製作・大塚巧藝社

